

## 平成29年度 新潟県立十日町高等学校シラバス

教科名	科目名	学科・学年・類型	単位数
国語	国語総合（古典分野）	普通科・1年生	5（古典3）
教科書	[主たる教材] 教科書 改訂版 国語総合（古典編）（数研出版）		
副教材等	[副教材] 国語便覧（数研出版） ベネッセ全訳古語辞典（ベネッセ） 基礎から学ぶ解析古典文法（桐原書店） 必携新明説漢文（尚文出版）		

## 1 科目の目標

<ul style="list-style-type: none"> <li>○古典に親しみ古典の文章を的確に理解する能力を養う。</li> <li>○自ら学ぶ姿勢と、古典の基本的な文法事項・句法・単語を習得する。</li> <li>○優れた古典作品に触れることにより、心情を豊かにし、言語感覚を磨き、言語文化に対する関心を深め、国語を尊重してその向上を図る態度を育てる。</li> </ul>
---

## 2 科目の内容

<ul style="list-style-type: none"> <li>○基礎事項の徹底（重要語や文法事項を理解できるようになるまで反復して学習する。）</li> <li>○主体的な学習の取り組み（ただ授業者の訳を書き取るのではなく、自ら調べて読解し、鑑賞する。）</li> </ul>
--

## 3 授業計画

月	内 容	配当時間	指導上の留意点
4月	古文 宇治拾遺物語「児のそら寝」 漢文 入門1（訓読の基礎）	18	<ul style="list-style-type: none"> <li>・古文に親しみを持てるよう、話のおもしろさを理解させる。</li> <li>・文法事項を習得させる。（品詞の種類・動詞）</li> <li>・訓読と書き下し文のきまりに習熟させる。</li> </ul>
5月	○1学期中間考査		
5月	古文 徒然草「つれづれなるままに」 「奥山に猫またといふものありて」 漢文 入門2（再読文字・助字・置き字） 漢文 戦国策「虎の威を借る狐」	23	<ul style="list-style-type: none"> <li>・随筆の各章段の理解を深める方法を学ばせ、人間や社会に対する作者の思想や感情を読み取らせる。</li> <li>・文法事項を習得させる。（用言の活用）</li> <li>・格言を通して漢文訓読に親しむ。</li> <li>・なじみのある故事成語を通して漢文訓読に親しみ、語の成り立ちを理解させる。</li> </ul>
7月	○1学期期末考査		
7月	古文 竹取物語「なよ竹のかぐや姫」  十八史略「管鮑の交わり」	18	<ul style="list-style-type: none"> <li>・物語の背景にある風俗、習慣、ものとのらえ方を考えさせる。</li> <li>・文法事項を習得させる。（助動詞の種類・活用）</li> <li>・春秋時代の時代の時代背景を学習し、今後の漢文学習に必要な知識を養わせる。</li> </ul>
10月	○2学期中間考査		
10月	古文 伊勢物語「芥川」 土佐日記「門出」 漢文 唐詩「静夜思」「送元二使安西」「登高」	23	<ul style="list-style-type: none"> <li>・歌物語、日記文学の特徴を理解させる。</li> <li>・文法事項を習得させる。（助動詞の活用・種類）</li> <li>・唐詩を読み味わい、中国文学への関心を高めるとともに、漢詩のきまりを理解させる。</li> </ul>
12月	○2学期期末考査		
12月	古文 伊勢物語「筒井筒」 漢文 雑説	11	<ul style="list-style-type: none"> <li>・歌物語における和歌の役割を理解させる。</li> <li>・文法事項を習得させる。</li> <li>・文章の論理的構成と比喩表現を押さえ、筆者の主張を読み取らせる。</li> </ul>
1月	○3学期中間考査		
1月	古文 平家物語「木曾の最期」	12	<ul style="list-style-type: none"> <li>・軍記物語を通して、登場人物の会話や行動から人物の内面を読み取らせる。</li> <li>・敬語表現を理解させる。</li> </ul>
3月	○学年末考査		
計		105	時間（55分授業）

## 4 学習評価

評価の観点・規準	関心・意欲・態度	話す・聞く能力	書く能力	読む能力	知識・理解
	国語で伝え合う力を進んで高めるとともに、言語文化に対する関心を深め、国語を尊重してその向上を図ろうとする。	目的や場に応じて効果的に話し的確に聞き取ったり、話し合ったりして、自分の考えをまとめ、深めている。	相手や目的、意図に応じた適切な表現による文章を書き、自分の考えをまとめ、深めている。	文章を的確に読み取ったり、目的に応じて幅広く読んだりして、自分の考えを深め、発展させている。	伝統的な言語文化及び言葉の特徴やきまり、漢字などについて理解し、知識を身に付けている。
評価方法	<ul style="list-style-type: none"> <li>・定期考査、課題テスト、授業内の小テスト、課題提出、ノート点検、平常授業を総合して評価する。</li> <li>・1、2学期は現代文、古典を別々に評価し、欠点補習や課題テストも別々に行い、学年末には国語総合として評価する。</li> </ul>				

## 5 担当教員

国語科教諭

## 6 担当者からのメッセージ

<ul style="list-style-type: none"> <li>・古典の基本は音読です。リズムよく読めるようになるまで繰り返し声に出して本文を音読しましょう。</li> <li>・必ず予習をして授業に臨んで下さい。</li> <li>・現代語とは異なる意味を持つ単語や文法事項など、覚えるべきことは、副教材や小テストを活用して確実に覚えるようにしましょう。</li> </ul>
--